

05 伊勢湾マリン開発株式会社

所在地 三重県津市桜橋3丁目53の1
事業内容 複合サービス業
従業員数 120名

HPは
こちら



テーマ AI活用による業務効率化とDX率先企業への変革

DXチャレンジの きっかけ

DXという概念自体が明確にイメージできていなかったため、支援を通じて理解を深めようと考えました。当社はスイミングクラブ、スポーツクラブ、デイサービスの3事業を運営しており、フランチャイズ部門ではDXの導入が難しいと感じていました。そのため、間接部門のDXに焦点を当て、特に社員との面談業務の効率化を目指して取り組みを開始しました。

具体的な課題

- 1 DXの具体的な取り組み方法が不明確
- 2 社員との面談業務が属人的で非効率
- 3 AI活用に対する社内の理解が不足

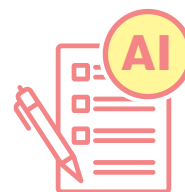
Zoom会議やタブレットを活用した業務改善は行ってきました。例えば、プールコーチの子供のテスト結果を紙ではなくタブレットで管理し、保護者が即時確認できる仕組みを導入しています。しかし、DXの本質的な活用にはまだ課題を感じていました。



伴走支援取組内容

AI議事録アプリ「SACCA」を導入し、 面談業務の効率化

社員との面談業務の効率化を目指し、AI議事録アプリ「SACCA」を導入しました。これにより、議事録作成の手間を削減し、記録の正確性を向上させました。



ChatGPTを活用し、販促活動や業務の自動化

ChatGPTの活用方法を学び、販促活動や文章作成に応用することも試みました。評価制度をAIを活用して作成することで、社員へのフィードバックがより具体的になり、モチベーション向上にもつながりました。

今後の
展望

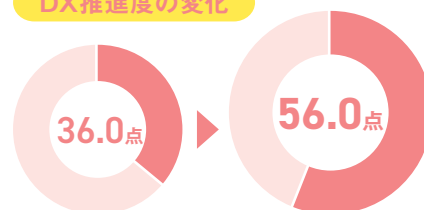
DX研修を実施し、社員の意識改革

今後は社員向けに研修を実施し、全社的にDXを推進する体制を整えていきます。

得られる効果(未来予測)

- ✓ SACCA導入により、面談時間やまとめ業務が効率化
- ✓ 今後は、AIを活用した販促活動の強化、社員のDXに対する意識を向上
- ✓ 受付業務の自動化を目指す

DX推進度の変化



企業担当者の声

AIの活用に対する抵抗感がなくなり、特にChatGPTを業務で活用する習慣ができました。例えば、成長シートの作成時間が大幅に短縮され、社内の情報共有がスムーズになりました。また、販促活動においても、AIを活用した広告文の作成が可能となり、より効果的なマーケティング施策を検討できるようになりました。

今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXは一歩ずつ進めていくことが大切です。特に、ChatGPTなどの生成AIは無料で試せるものも多く、まずは実際に触れてみることをおすすめします。若手社員が興味を持てる環境を作ること、DX推進がスムーズに進むと思います。